

『原爆落下中心地』

◎登場人物

男

女

原爆落下中心地。

男「そんなに遠くなかったな」

女「ちょっと暑い」

男「お茶は、ペットボトル残ってるか」

女「うん。これなんて言うの」

男「どれ」

女「このデザイン、白い丸い円がこうやって、こうちょっとずつ大きくなってる」

男「同心円」

女「同心円…。原爆が炸裂した場所ってこと？」

男「そうだろうな。凄い」

女「あそこに稲佐山の頂上が見える」

男「ああ、本当だ」

女「ここを見下ろしたんだね。あそこから、ここを、見下ろしたんだよね」

男「別に、ピンポイントでは見下ろしてないけど」

女「見下ろしたよ。だって、バスガイドさんが、あそこが浦上の地ですって、叫んでたもん」

男「叫んではなかったような」

女「心の中では叫んでたよ。はしゃぐ観光客に」

男「そう？」

女「ねえ、資料館であれ見た？」

男「どれのこと」

女「爆風と放射線と熱線が、炸裂してからどう広がって、山を駆け上ったか。映像あったでしょ」

男「ああ、あったあった」

女「この山々がねえ」

男「山がどうかした？」

女「ちゃんと見てないでしょ」

男「見たよ。山がどうしたって」
女「山に囲まれたこの地形が、被害を広げなかったって」
男「ああ、説明に書いてたな」
女「ショックな写真ばかり夢中で見てたんじゃないの」
男「夢中で見てたら悪いみたいな言い方」
女「だって説明も全部読まない。ただでさえ、知らないことばかりなんだから。でしょ」
男「真面目」
女「真面目、駄目なの？」
男「いや。思いを馳せてるなあと思って」
女「…うーん、なんだか思い出すな」
男「なにを。なにか思い出した？」
女「山に囲まれてる景色がね、田舎を思い出すなあと思って」
男「宇和島に似てるか」
女「覚えてない？」
男「どうだったかな。こんな感じだった気もするよな」
女「曖昧な答え」
男「仕方ないだろ。一度行ったきりだし」
女「まあ、仕方ない仕方ないね」

女と男は、近くにある母子像の前に立つ。

男「1945. 8. 9. 11:02」
女「これはその時の、だよな」
男「そうだろうな。左手がなにで右手がなんだっけ。さっき見た、祈念像」
女「左が平和、右手が原爆」
男「ああ、そうだった」
女「理解した気になった？」
男「え、どういうこと」
女「観光客が理解した気になりやがってって、思われてたりして。あの、犬連れてるおじちゃんに」
男「この近所に住んでる人かな」
女「朝の散歩コースなんでしょ」
男「理解した気になるやつがいたら、そいつ、凄だと思う」
女「うん」

男「説明読んで、全てを理解した気になったか？」

女「とても。とても、そんな気になれない」

男「有り難いけどな、観光客は。少しでも知ることができて」

女「…75年草木の生じることなしって書いてたでしょ」

男「ああ、あそこに」

女「…よく、そんな近くにラブホテル作るなあ」

男「生活の場所だから、仕方ないよ」

女「だからって、こんな見える所に作らなくてもいいのに」

男「行く？」

女「なに、今から？朝から行きたいの？」

男「違うよ。そんな雰囲気になった時に、あそこのラブホ行けるかって」

女「行けない」